

# コメントライナー

第6734号

2019年6月12日(水)

## ◎トランプ大統領の「Reiwa」スピーチ

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

### ◆意外といい人かも

祝賀ムードに沸いた改元に伴う「令和あやかり」商戦やイベントも一段落した感がある先月末、トランプ米大統領夫妻が令和初の国賓として来日した。

外交の成果はともかくとして、今回の来日におけるトランプ氏のスピーチに注目してみた。トランプ氏と言うと「過激な発言」というイメージが付きまとうが、さすがに外向きには紳士的で、話もわかりやすく、意外に良い人なのでは…という印象を受けた。いろいろな意味で力を抜いていた訪日だったからかもしれないが…。

### ◆キーワードを明瞭発音

スピーチとして最も内容的に整っていたのは、宮中晩さん会での挨拶だ。先に挨拶を述べられた天皇陛下に続いて、挨拶に立った大統領は、陛下の柔らかで品格のある話し方と合わせるように落ちついたトーンで話し始め、話の山場、新しい元号である「令和」について「万葉集」の記述を引用しながら述べる箇所では、フレーズを丁寧立て、かつ、リズムカルな調子で熱弁を振るったのは、列席者の共感を得るのに効果的であったと思う。

特に印象に残ったのは「令和」の発音だ。既に若い世代では「れ～あ～」と崩して発音されているのに、クリアーに「REIWA(レ・イ・ワ)」と発音したことに好感を持った。前日の大相撲観戦でも「米大統領杯」を朝乃山関に贈呈した際に「REIWA ONE(令和元年)」と読み上げ、万雷の拍手を受けていた。キーワードを明瞭にゆっくりと発音するのは、聞き手にメッセージをしっかりと受け止めてもらうために欠かせない、基本的なスピーチ・テクニックだ。

### ◆聞き手を喜ばせる

両首脳の間共同記者会見では、安倍首相はワンフレーズごとに間を取り、5秒に1回のペースで身体の向きを右左正面と変える、また、ジェスチャーも取り入れるなど、聞き手への自身の見せ方を十分に計算してスピーチしているのが見て取れた。

一方、トランプ氏はやや早口で、プロンプターに映し出されたものを読み上げている感があったが、導入部の「The Land of the Rising Sun(日出ずる国)」など言葉選びに巧みさが光っていた。身体の向きを変える動作も自然で余裕を感じさせた。

今回のトランプ氏の主なスピーチからビジネスに使えるコツを学ぶとしたら、まず、話し方をその場にふさわしいものにする事で相手の共感を得られる、ということ。大相撲の土俵では大観衆を前に声を張り、威風堂々と。晩さん会では厳かに礼儀正しく。共同記者会見ではよどみなく滑らかに、と使い分けていた。また、サービス精神が心を掴む。聞き手を喜ばせる言葉を随所に入れることで、仮にそれまでの印象が悪くなくても、それを払拭し、好意を持って受け入れられる、ということだ。さすが百戦錬磨の強者だ。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003